

第 1 3 0 4 回 京都市教育委員会会議 会議録

1 日 時 平成 2 6 年 3 月 6 日 木曜日

開会 1 0 時 0 0 分 閉会 1 2 時 0 0 分

2 場 所 京都市役所内 教育委員室

3 出席委員 委 員 長 藤原 勝紀

委 員 星川 茂一

委 員 奥野 史子

委 員 鈴木 晶子

委員・教育長 生田 義久

4 傍 聴 者 0 人

5 議事の概要

(1) 開会

1 0 時 0 0 分, 委員長が開会を宣告。

(2) 前会会議録の承認

第 1 3 0 3 回京都市教育委員会会議の会議録について, 全委員の承認が得られた。

(3) 議事の概要

ア 議事

議案 2 件 報告 1 件

イ 非公開の承認

議案 2 件については, 人事に関する案件であり, 京都市教育委員会会議規則に基づき, 非公開とすることについて, 全委員の承認が得られた。

ウ 報告事項

第 3 次京都市子ども読書活動推進計画 (仮称) 策定について

(事務局説明)

○ 俣野家庭地域教育支援課長

昨年 11 月の報告以後実施した第 3 次京都市子ども読書活動推進計画 (素案) に対するパブリックコメントでは, 内容について賛同のうえ, しっかり実行し, また必要な啓発をしてほしい旨の意見が大半を占めていた。いただいた意見も参考に策定会議で議論し, 第 3 次計画案を策定した。

第 3 次計画では, 学校図書館運営支援員の配置拡大や学校図書館大改造の実施, 京都関

連図書の整備、市図書館の児童コーナーの充実や開館時間の拡大、家庭向けに読書の大切さを伝える啓発等を進めていく。

また、読書離れが懸念される中学生に対しては、読解力、表現力、コミュニケーション能力の向上にも結び付き、かつ子ども同士で共有共感し合える読書活動ともなるビブリオバトル（書評合戦）の取組や中学生版読書ノートの作成、市図書館でのティーンズコーナーの整備・充実などハード・ソフト両面にわたる施策を盛り込んでいる。

計画目標の達成に向けて、新規・充実事業、継続事業ともに地域、家庭、学校等が連携し、社会全体で取り組んでいきたい。

（委員からの主な意見）

- 本を読むことはよいことだということを前提におきつつ、どのような本を読むべきか、多様な価値観があるなか、批判的精神の涵養も大切。そういう状況において、学校図書館の選書はどのように行っているのか。今までの方法だけではなく、時代のニーズにあった配慮が必要。
- ビブリオバトルについて、読み込む力や表現する力が身につくのでおもしろい取組だと思う。現在学校での取組状況はどのようなものか。
- 小学校でも、読書をした感想や本の紹介の掲示はよくされているが、小学生向けに取り組み易くしたビブリオバトルのような人前で発表する機会があるといよい。
- 産まれた時から生涯の読書の記録のようなものをデータとして蓄積でき、読んだ本を確認できたり、これまでの成長を振り返ることができたらおもしろい。
- 本の読み方について、日本では黙読が主流だが、音読、暗誦、速読、遅読といろいろな方法がある。数行を何日もかけて読んだり、暗誦したりすることは、普通に黙読するのとは違い、言葉が体に染み込んでくるので、いろいろな方法の読み方をしてはどうか。
- 基本方針の「京都の魅力や歴史、伝統文化などに親しむ読書活動の推進」について、具体的な施策として、古典の朗読や暗誦などを取り入れてはどうか。
- 本と出会うことは、本を通じて歴史や文化と出会ったり、人に出会ったりすることでもある。
- 親が読んでいない本を子どもが読んでいたりするので、親子での読書を通じて親が子どもから学ぶことも多い。親が子どもに教えるばかりではない。
- 子どもの身の回りに本がある環境づくりの一つとして、学級文庫の充実は大切。その一つとして公共図書館の廃棄図書を学校で再活用することはできないか。

（事務局）

- 学校図書館の選書については、学校判断で行っている。教育委員会として、一律の基準を示しているわけではないが、読書ノートに おすすめ本を記載している他、図書館研究会が教科に関連する図書等を提示している。各教科の領域の中で学校図書館を利活用できるように、選書の方法も考えていく必要がある。
- ビブリオバトルについては、いくつかの中学校で実施している。昨年 11 月に実施した中学校総合文化祭では 11 校 25 名の生徒がビブリオバトルに参加した。中学生からは参加してよかったとの感想を聞いている。
- ビブリオバトルをするにはしっかり本を読み込み、それを表現する力が必要になるので、小学生にとっては難しいかもしれないが、例えば読書ノートに感想等を書いて友達に本

を紹介したりすることも考えられる。

- 読書の記録については、公共図書館では個人情報の関係で返却時にデータを消去しているが、紙ベースでの記録、例えば読書ノート等を活用し、個人でデータを管理してもらうことはできる。
- 国語の宿題等で音読をすることがあるが、保護者に聞いてもらうことを奨励したい。
- 「古典の日」にちなんだ特設コーナーや中学生向けの古典の朗読コンテストを実施しており、計画にも加えておく。
- 管理・運用の面からもまず学校図書館の整備を図り、次の段階として学校図書館運営支援員の協力を得ながら、学級文庫の充実も図っていきたい。
- 公共図書館の廃棄本については、汚損、き損など使用できないものや記載内容が古いものも多いが、活用できるものは学校で活用している。

エ 議案事項

議第57号 人事について

(事務局説明)

○ 東教職員人事課長

平成26年度の学校・幼稚園の管理職人事について説明する。

概要として、まず1点目は、市教委に在籍する校長級の首席指導主事等の現場転出である。26年度は12名が、市教委から校長への転出者であり、これまで様々な分野で学校の指導・助言を行ってきた人材である。学校現場においても存分にその力量を発揮していただくための配置としている。

2点目は、若手の登用である。昨年度までに小・中学校の教頭昇任基準を「44歳以上」と引き下げたところだが、それでも年齢層として候補者が少ない状況があるため、今回選考基準からは「40歳以上」にまで引き下げている。

その結果、小学校では41歳、42歳、43歳の教頭、中学校では41歳、43歳の教頭など、若い層で高い能力と意欲を備えた人材の登用を行いたいと考えている。

一方で、若さだけではなく、長年の実践を積まれた方の実力を評価し、50代後半での管理職昇任も行う人事案としている。

3点目は、校種間異動である。24年度人事から積極的に特に小学校・中学校間での人事異動を実施しているが、今回の26年度人事においても既に他校種に異動している教頭をそのままの校種で校長に昇任させるなど、小中連携をさらに高めるための人事として計画的に組み込み、また26年度からの新たな小中人事異動も含めて、拡大しつつある。

4点目は、文部科学省職員の学校管理職への受け入れである。文部科学省から、学校現場の実情や課題を把握し、今後の政策の企画立案に活かす目的で、京都市立学校教頭職として3年間の派遣受け入れ依頼があり、このたび、御所南小学校に二人目の教頭として受け入れる。学校指導を中心とした支援体制のもと、お力を発揮していただけるよう、万全を期していく。

今回人事の結果として、女性管理職の比率が小学校で25年度から1.8ポイント増の27.6%となった。特に小学校・校長においては、4.2ポイント増の23.8%と大幅に向上している。来年度以降も、男性校長の退職者数が多く見込まれるので、比率は上昇傾向にある。

中学校での女性管理職比率は低い状況にあるため、人事施策として、女性教員がさらに活躍できる環境づくりに努めてまいりたい。

(委員からの主な意見)

- 本市として文科省からの管理職受け入れは初めてのこと。こういった人物か。
- 教頭を2人配置している学校は他にもあるのか。
- 次代の育成も含めて、難しい面もあると思うが、課題とされているところがあれば教えていただきたい。

(事務局)

- 文科省から派遣される方について、面接を実施しており、大変意欲的な方である。大阪で勤務された経験などもあり、一定イメージは持たれている。教頭職の実務についても、文科省内で教頭経験者の話を聞くなどして準備をされている。
- 複数教頭配置は、統合校において実施しているほかに、大規模校である神川中学校で既に実施している。御所南小についても大規模であることに加え、独自のカリキュラムによる先進的な教育の取組など、文科省に戻られた際に、新しい学校教育のモデルとして参考にしていただける部分があるのではないかと考えている。
- 今後も含めた、管理職人事の課題としては、年齢構成上40代の層が薄い中、次代の管理職のなり手が少ないということがある。今回も41歳の教頭を登用することとしているが、この状況が数年間は続くため、一般人事も含めて、計画的に中堅層を育成しながら経験を積ませていくような人事配置を行っていくことを現在も行っているが、そういった人材育成を意識した人事がさらに重要になってくると考えている。

(議決)

委員長が、議第57号「人事について」に対して、採決を行い、各委員「異議なし」を確認。

議第58号 人事について

(事務局説明)

○ 的山総務課長

教育委員会事務局課長級以上等の教育職職員の平成26年4月1日付け人事異動について説明する。

＜所属順に転出・転入者の出入について説明を行う。以下は主だった説明を記載。＞

平成26年度の人事の特徴は、2点である。まず1点は、退職校長の嘱託化である。平成25年度に引き続き、正規ポストに学校現場で優れた実績を挙げられた退職校長などを嘱託として配置している。平成26年度に新たに嘱託化するポストは、合計9ポストである。

もう1点は、伏見工業高校と洛陽工業高校を統合した新工業高校の開設等に向け、首席

指導主事を1名、指導主事を1名増員し、学校指導課高校教育担当の体制を強化している点である。

(委員からの主な意見)

○人事異動にあたって、特に留意した点は何か。

○昨今の教育委員会制度改革の中で、教育委員会事務局職員の専門性についても、よく議論されている。今後とも、優秀な人材の確保はもとより、行政職を含めた教育委員会事務局職員の専門性の向上に向け、取り組んでいく必要がある。

(事務局)

○定年退職を迎える校長の多くが、心身ともにまだまだ元気であり、このような人的資源を教育委員会として、最大限有効に活用できるよう努めたところである。

○今後とも、教育委員会事務局職員の専門性の向上に努めていく。

(議決)

委員長が、議第58号「人事について」に対して、採決を行い、各委員「異議なし」を確認。

(4) 閉会

12時00分、委員長が閉会を宣告。

署 名 委員長